

教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
こども教育学部	講師	溝上義則	博士(医学)・修士(医科学)・芸術(学士)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 1)Problem-based learning(問題解決型学習)によるチュートリアル教育 2)Zoomのチャット機能を利用した双方向性の授業展開 3)Google classroomを活用した授業展開	平成22年6月～平成28年3月 令和2年10月、令和3年11月、令和4年11月 令和2年12月、令和4年1月、令和4年12月、令和5年1月 令和5年4月～7月	大分大学医学部3年生を対象に正常編(組織学・生理学・生化学)、病態編(病理学・病原体・薬理学)、免疫・血液、呼吸器、消化器、循環器、腎・泌尿器、内分泌・代謝等に関するPBLを通して必要な知識の確認と修正、討論の誘導や評価をTAとして行った。 臓器別コース「行動・精神・心理」をオムニバスで担当し遠隔講義で大分大学医学部の学生を対象にテキストチャット機能を介した双方向性の授業を展開した。 保健医療分野に関する理論と支援の展開1「精神医学特論」において別府大学文学研究科臨床心理学専攻(修士課程)の学生を対象にテキストチャット機能を介した双方向性の授業を展開した。 1年前期「基礎セミナー」用のclassroomを作成し、資料や課題の配布、提出などの授業管理を行った。classroomを通じて授業前後に簡単なアンケートを実施するなど、学生の理解度を把握し、授業内容に反映させることで進度の調整を行った。	
(2)作成した教科書・教材・参考書 1)講義用補助教材 2)講義用補助教材 3)講義用補助教材 4)教科書 5)講義用補助教材 6)講義用補助教材	平成25年4月 平成28年4月 平成31年4月 令和元年10月 令和2年4月～令和5年1月 令和5年4月～7月	大分大学教育福祉科学部総合表現コースにて「芸術療法概論」で使用する資料を作成した。 大分大学医学部にて「行動・精神・心理」で使用する資料を作成した。 別府大学大学院文学研究科臨床心理学専攻にて「精神医学特論」で使用する資料を作成した。 藤華医療技術専門学校作業療法学科にて「基礎作業学」で使用する教科書「アートセラピーBasic」(新興医学出版社)を出版した。 東九州短期大学幼児教育学科にて、保育内容(表現)の指導法で使用する資料「年齢別・指導案のポイント」や「発達に応じた造形表現のための教材研究」など、課題ごとに資料を作成した。 尚綱大学こども教育学部にて、「基礎セミナー」で使用する資料「図書館での学び」「論文検索」「引用方法」などを作成した。	
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

1)研修会講師	平成23年11月	福岡県高等学校芸術科研究会美術工芸部会研修会講師として美術教員を対象に、障害のある児童生徒や特別な支援を要する生徒への美術教育における療法的な役割に関して概説した。
2)研修会講師	平成27年11月	大分県精神病院協会作業療法士部会研修会講師として精神科作業療法士を対象に、リハビリや心理療法としての創作活動について講演し、障害に応じた道具の選定等の配慮事項についても解説した。
3)大学院特別講義	平成29年4月	産業医科大学医学部大学院生に対し、絵画療法に関する症例報告および神経審美学について脳画像研究を紹介しながら概説した。
4)研修会講師	平成30年7月	北九州市立八幡病院小児総合医療センターにて小児科医、看護師、病棟保育士を対象として、情緒の安定を目指す表現活動の心理学的な意義について講演を行った。
5)大学授業体験講師(中高大連携事業)	令和5年6月	中高大連携事業の大学授業体験として、「病気の子どもとその支援」について、尚綱高等学校2年生を対象に授業を2クラス実施した。
(4)その他教育活動上特記すべき事項 1)研究室配属実習生に対する研究指導	平成22年6月～ 平成28年3月	大分大学医学部医学科TAとして4年生の「チュートリアル教育(研究室配属実習3単位)」にて、脳機能計測装置であるMRIを用いた脳画像研究に関して、脳画像の撮像、データ収集、脳画像解析、発表準備までを指導した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
1)アートセラピーBasic : 精神科作業療法・デイケアで使いたい12のメニュー	単著	2019年10月	新興医学出版社 ISBN:978-4880027883		p.5-p.105
2)依存(脳とこころのプライマリケア8)(日野原重明監修)「眼科領域」	共著	2011年2月	株式会社シナジー ISBN:978-4916166326	寺尾岳、溝上義則、山下瞳	p.291-p.297
3)うつ病治療ハンドブック(大野裕編)第3部・治療論「運動療法」	共著	2011年1月	金剛出版 ISBN:978-4772411783	寺尾岳、山下瞳、溝上義則	p.296-p.300
(論文)					
1)大学を休学中に入院となった治療抵抗性統合失調症者との面接過程	共著	2023年3月	大分大学臨床心理研究第3号	溝上義則、河野伸子	p.15-p.23
2)病棟保育と特別支援教育における病弱児への心理的支援:小児白血病を例に長期療養における問題を踏まえて	共著	2022年9月	大分大学教育学部研究紀要44巻	溝上義則、麻生良太	p.97-p.112
3)子どもの想像力を育む絵の技法研究—絵本の世界観を伝えるために—	単著	2022年3月	東九州短期大学研究紀要21号		p.51-p.60
4)対話型鑑賞がもたらす共感的理解に関する考察:医療従事者養成校における美術教育の意義の検討(査読あり)	共著	2022年3月	大学美術教育学会「美術教育学研究」第54号	溝上義則、麻生良太、河野伸子	p.345-p.352
5)病気療養児の造形表現活動に関する研究～効果・素材・手法の検討～(査読あり)	単著	2021年3月	大学美術教育学会「美術教育学研究」第53号		p.257-p.264

6)造形表現に関連した発達過程の学び—保育内容の指導法における指導案作成に向けた授業展開—	単著	2021年3月	東九州短期大学研究紀要第20号		p.20-p.29
7)教職課程履修者と芸術を学ぶ学生における美術鑑賞法の受容—「鑑賞群」と「観察群」の体験から	単著	2021年2月	大分大学高等教育開発センター紀要 13		p.97-p.110
8)美術教育における療法的な視点について： 図画工作・美術科教育と 絵画療法についての多 角的検討	単著	2020年3月	大分大学高等教育開発センター紀要 12		p.67-p.78
9)Affective temperaments are associated with the white matter microstructure in healthy participants (査読あり)	共著	Dec, 2018	Bipolar Disorders 21(6)	Koji Hatano, Takeshi Terao, Takuya Hayashi, Hirofumi Hirakawa, Mayu Makino, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Minoru Fujiki, Tsuyoshi Shimomura	p.539-p.546
10)Cyclothymic temperament and glucose metabolism in the right superior parietal lobule (査読あり)	共著	Dec, 2017	Psychiatry Research: Neuroimaging 270	Koji Hatano, Takeshi Terao, Hirofumi Hirakawa, Kentaro Kohno, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Nobuyoshi Ishii	p.76-p.79
11)A Predictive Model of Plasma Lamotrigine Levels (査読あり)	共著	Apr, 2016	Pharmacopsychiatry 49(05)	K. Kamei, T. Terao, Y. Katayama, K. Hatano, K. Kodama, M. Shirahama, A. Sakai, H. Hirakawa, <u>Y. Mizokami</u> , I. Shiotsuki, N. Ishii, Y. Inoue	p.182-p.185
12)Postcomparison of [18F]-fluorodeoxyglucose uptake in the brain after short-term bright light exposure and no intervention (査読あり)	共著	Mar, 2016	Acta Psychiatrica Scandinavica 134(1)	K. Kohno, T. Terao, K. Hatano, K. Kodama, M. Makino, <u>Y. Mizokami</u> , K. Kamei, A. Sakai, M. Shirahama, H. Hirakawa, G. Kashino, S. Matsumoto, H. Mori, K. Ohashi, T. Yano	p.65-p.72
13)Trace lithium is inversely associated with male suicide after adjustment of climatic factors (査読あり)	共著	Jan, 2016	Journal of Affective Disorders 189	Ippei Shiotsuki, Takeshi Terao, Nobuyoshi Ishii, Shouhei Takeuchi, Yoshiki Kuroda, Kentaro Kohno, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Koji Hatano, Sanshi Tanabe, Masayuki Kanehisa, Noboru Iwata, Shinya Matusda	p.282-p.286
14)Low Risk of Male Suicide and Lithium in Drinking Water (査読あり)	共著	Feb, 2015	The Journal of Clinical Psychiatry 76(03)	Nobuyoshi Ishii, Takeshi Terao, Yasuo Araki, Kentaro Kohno, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Ippei Shiotsuki, Koji Hatano, Mayu Makino, Kensuke Kodama, Noboru Iwata	p.319-p.326

15)Identification of the neural correlates of cyclothymic temperament using a working memory task in fMRI. (査読あり)	共著	Jan, 2015	Journal of affective disorders 171	Kensuke Kodama, Takeshi Terao, Koji Hatano, Kentaro Kohno, Mayu Makino, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Kimie Kamei, Yosuke Katayama, Yuriko Hoaki, Akari Sakai, Masanao Shirahama, Shohei Watanabe, Tsuyoshi Shimomura, Minoru Fujiki, Takanori Kochiyama	p.1-p.5
16)Identification of the neural correlates of cyclothymic temperament using an esthetic judgment for paintings task in fMRI. (査読あり)	共著 (筆頭)	Dec, 2014	Journal of affective disorders 169	<u>Yoshinori Mizokami</u> , Takeshi Terao, Koji Hatano, Kensuke Kodama, Kentaro Kohno, Mayu Makino, Nobuhiko Hoaki, Yasuo Araki, Toshihiko Izumi, Tsuyoshi Shimomura, Minoru Fujiki, Takanori Kochiyama	p.47-p.50
17)Therapeutic Window of Lamotrigine for Mood Disorders: A Naturalistic Retrospective Study (査読あり)	共著	May, 2014	Pharmacopsychiatry 47(03)	Y. Katayama, T. Terao, K. Kamei, K. Hatano, K. Kohno, M. Makino, <u>Y. Mizokami</u> , K. Kodama, H. Itoh	p.111-p.114
18)Difference in brain activations during appreciating paintings and photographic analogs. (査読あり)	共著 (筆頭)	Jul, 2014	Frontiers in human neuroscience 8	<u>Yoshinori Mizokami</u> , Takeshi Terao, Koji Hatano, Nobuhiko Hoaki, Kentaro Kohno, Yasuo Araki, Kensuke Kodama, Mayu Makino, Toshihiko Izumi, Tsuyoshi Shimomura, Minoru Fujiki, Takanori Kochiyama	10.3389/fnhu.m.2014.0
19)Hyperthymic temperament and rapid reaction time in brightness preference. (査読あり)	共著	Dec, 2013	Journal of affective disorders 151(3)	Kensuke Kodama, Mayu Harada, Takeshi Terao, Koji Hatano, Kentaro Kohno, Yasuo Araki, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Nobuhiko Hoaki, Tsuyoshi Shimomura, Minoru Fujiki, Takanori Kochiyama	p.914-p.919
20)Hyperthymic temperament and brightness preference in healthy subjects: further evidence for involvement of left inferior orbitofrontal cortex in hyperthymic temperament. (査読あり)	共著	Nov, 2013	Journal of affective disorders 151(2)	Mayu Harada, Takeshi Terao, Koji Hatano, Kentaro Kohno, Yasuo Araki, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Kensuke Kodama, Nobuhiko Hoaki, Miyano Arasaki, Tsuyoshi Shimomura, Minoru Fujiki, Takanori Kochiyama	p.763-p.768

21)Hyperthymic temperament and brightness judgment in healthy subjects: involvement of left inferior orbitofrontal cortex.(査読あり)	共著	Oct, 2013	Journal of affective disorders 151(1)	Mayu Harada, Nobuhiko Hoaki, Takeshi Terao, Koji Hatano, Kentaro Kohno, Yasuo Araki, <u>Yoshinori Mizokami</u> , Kensuke Kodama, Koji Toyokawa, Toshihiko Izumi, Miyano Arasaki, Tsuyoshi Shimomura, Minoru Fujiki, Takanori Kochiyama	p.143-p.148
22)絵画療法を試みた統合失調症の1例:描画時間・面積からの検討(査読あり)	共著	2013年8月	九州神経精神医学 59(2)	溝上 義則, 寺尾 岳, 山下 瞳, 河野 寿恵, 田中 悦弘	p.77-p.82
23)Type A behavior pattern: Bortner scale vs. Japanese-original questionnaires(査読あり)	共著	Dec, 2012	Journal of Affective Disorders 142(1-3)	Yumei Wang, Takeshi Terao, Nobuhiko Hoaki, Shinjiro Goto, Yasuo Araki, Kentaro Kohno, <u>Yoshinori Mizokami</u>	p.351-p.354
24)The Effects of Single and Repeated Psychiatric Occupational Therapy on Psychiatric Symptoms: Assessment Using a Visual Analogue Scale(査読あり)	共著	May, 2011	Stress and Health 28(2)	Hitomi Yamashita, Takeshi Terao, <u>Yoshinori Mizokami</u>	p.98-p.101
25)作業療法における音楽活動と、音楽療法士による音楽療法の比較(査読あり)	共著	2009年	九州神経精神医学 55(3・4)	山下 瞳, 寺尾 岳, 溝上 義則	p.151-p.155
26)単回の精神科作業療法が精神症状に与える影響--Visual Analogue Scaleを用いた検討(査読あり)	共著	2008年	九州神経精神医学 54(3・4)	山下 瞳, 寺尾 岳, 溝上 義則	p.173-p.177
27)単回の絵画療法の精神症状に対する効果--予備的研究(査読あり)	単著	2008年	日本芸術療法学会誌 39(2)		p.40-p.46
(その他:依頼原稿)					
1)症例 復職失敗を繰り返した後、作業療法の活用により復職が成功しつつある1例	共著	2014年2月	精神科 = Psychiatry / 精神科編集委員会 編 24巻2号	山下 瞳, 寺尾 岳, 溝上 義則	p.241-p.246
2)精神科のくすりの適応外使用-精神科のくすり:精神科のくすりと精神医療	共著	2009年1月	こころの科学 (143)	寺尾 岳, 溝上 義則, 山下 瞳,	p.77-p.82
(その他:学会発表)					
1)絵画の審美判断と循環気質	共同(発表者)	2014年9月	第36回日本生物学的精神医学会:奈良大会:奈良県新公会堂	溝上義則、寺尾岳、秦野浩司、帆秋伸彦、河野健太郎、荒木康夫、児玉健介、牧野麻友、泉寿彦、下村剛、藤木稔、河内山隆紀	

2)The specific neural correlates of aesthetic judgment for paintings: in relation to bipolar temperaments(双極気質における審美判断の神経基盤について)	共同 (発表者)	2014年3月	14th International Review of Psychosis and Bipolarity :Divani Caravel Hotel 精神病と双極性障害の国際学会:ディヴァニ・カラベル・ホテル(ギリシャ)	溝上義則、寺尾岳、秦野浩司、帆秋伸彦、河野健太郎、荒木康夫、児玉健介、牧野麻友、泉寿彦、下村剛、藤木稔、河内山隆紀	
3)The specific neural correlates of aesthetic judgment for paintings: in relation to bipolar temperaments(双極性障害と関連した審美判断の神経基盤)	共同 (発表者)	2013年6月	10th INTERNAL CONFERENCE ON BIPOLAR DISORDERS :LOEWS MIAMI BEACH HOTEL 世界双極性障害学会:マイアミビーチホテル(アメリカ)	溝上義則、寺尾岳、秦野浩司、帆秋伸彦、河野健太郎、荒木康夫、児玉健介、牧野麻友、泉寿彦、下村剛、藤木稔、河内山隆紀	
4)水道水リチウムと自殺予防	共同	2013年6月	第32回リチウム研究会:東京	石井啓義、寺尾岳、児玉健介、秦野浩司、河野健太郎、荒木康夫、原田麻友、溝上義則	
5)発揚気質の光感受性に関するfMRI研究	共同	2011年7月	第30回躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会:京都ガーデンパレス	帆秋伸彦、寺尾岳、後藤慎二郎、王育梅、荒木康夫、河野健太郎、溝上義則	
6)精神科患者における絵画療法:単回効果の検討	単独	2009年10月	第41回日本芸術療法学会(仙台大会):東北福祉大学		
7)作業療法における音楽活動と、音楽療法士による音楽療法の比較	共同	2009年10月	第55回九州精神保健学会(熊本大会):熊本市国際交流会館	山下瞳、寺尾岳、溝上義則、下村泰斗	
8)単回の精神科作業療法が精神症状に与える影響:Visual Analogue Scaleを用いた検討	共同	2008年10月	第54回九州精神保健学会(宮崎大会):宮崎市JA・AZMホール	山下瞳、寺尾岳、溝上義則	

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2008年8月 - 現在	日本芸術療法学会 会員
2009年8月 - 現在	西日本芸術療法学会 会員
2013年6月 - 現在	九州精神神経学会 会員
2016年9月 - 現在	大学美術教育学会 会員
2016年9月 - 現在	日本美術教育学会 会員
2018年4月 - 現在	美術科教育学会 会員
2019年12月 - 現在	日本子ども学会 会員
2020年7月 - 現在	美術教育を進める会 会員
2020年7月 - 現在	全国病弱教育研究会 会員
2022年4月 - 現在	日本特殊教育学会 会員
2023年4月 - 現在	日本児童青年精神医学会 会員
2023年7月 - 現在	日本箱庭療法学会 会員